

令和5年度対応状況調査結果

令和4年度に聴取した意見等に対する取組計画への対応状況

令和4年度各課等におけるステークホルダーからの意見（要望）等とその取組計画等調査

★「ステークホルダー」とは、企業等の経営行動などに対して直接・間接的に利害が生じる関係者（利害関係者）のことをいう。
 具体的には、学生、保護者、同窓生（会）、役員・教職員、校友会、患者様、自治体等、就職企業先、業者等、地域市民一般、その他関係者（海外）など。

令和6年3月31日

整理番号	課名等	事業等	意見聴取対象者	意見聴取の方法	実施年月日	大学運営に有効活用できると思われるニーズ（要望）等	各課等における取組状況及び取組計画	取組計画等への対応状況
1	広報室	佐賀大学広報誌「かちがらす」第46号読者アンケート（広報誌についてご意見・感想）	佐賀大学広報誌「かちがらす」第46号読者アンケート回答者	アンケート（68名）	令和3年3月1日～令和4年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> ○取り上げてほしいテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の学生の過ごし方 ・サークルの紹介 ・就活生の取り組みについて ・佐大生の1日 ・地域との関係、防災への取組み ○意見・感想 <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントがあると嬉しい ・社会に出て活躍してしている先輩を取り上げて欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部署へ意見をお知らせします。 ・いただいた意見を精査し、可能なものについては広報誌、HPへ反映するよう検討します。 ・学生の活動やニュースなどをSNSや佐賀大学のニュースサイト「佐賀大Press」で発信し、幅広く広報していきます。 ・リクエストの多いテーマは、今後積極的に取り扱います。 ・第47号で読者プレゼントを実施しました。 ・今後「先輩からのメッセージ」では、30～40代で活躍する卒業生にも焦点を当てていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果で多かった意見に関しては、以降の広報誌上で積極的に取り扱っています。 ・49号でサークルについて特集しています。 ・「先輩からのメッセージ」は、これまで新人や若手を中心でしたが、48号より対象者の年齢を幅広く設定しました。読者アンケートでは、保護者も勉強になるとのご意見をいただいています。 ・47号から始めた読者プレゼントは、以降の号でも継続していきます。その結果アンケート回収率が以前の3～4倍まで増加しました。また、読者プレゼントのグッズも好評であったことから、佐賀大学生協同組合において佐賀大学オリジナルグッズとして販売することが決定しました。
2	広報室	佐賀大学広報誌「かちがらす」第47号読者アンケート（広報誌についてご意見・感想）	佐賀大学広報誌「かちがらす」第47号読者アンケート回答者	アンケート（150名）	令和4年10月1日～令和5年2月28日	<ul style="list-style-type: none"> ○取り上げてほしいテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・カッチーくんの特集 ・大学生のイベント・行事 ・地域との取り組み 共同研究について ・起業した学生・卒業生のインタビュー ・大学設備、学習環境 ○意見・感想 <ul style="list-style-type: none"> ・大きな字がありがたい ・子どもの食生活を知らりたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部署へ意見をお知らせします。 ・いただいた意見を精査し、可能なものについては広報誌、HPへ反映するよう検討します。 ・学生の活動やニュースなどをSNSや佐賀大学のニュースサイト「佐賀大Press」で発信し、幅広く広報していきます。 ・リクエストの多いテーマは、今後積極的に取り扱います。 ・読みやすい誌面になるよう、常に文字の大きさや写真を豊富に使ったレイアウトを意識して誌面制作します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果で多かった意見に関しては、以降の広報誌上で積極的に取り扱っています。 ・49号の特集でリスキルプログラムを通して地域との取り組みを紹介しました。 ・49号で大学生のイベントについて取り上げました。 ・誌面レイアウトについては、ライターとも相談し、写真を多く使用するレイアウトにしています。また、文字が密集する部分では、背景の色を工夫することで見やすくしています。 ・常に学生の生活が保護者に伝わるように心がけており、「誌面を通して子供の生活が想像できます」というご意見も多くいただいています。
3	広報室	来てみんしゃい佐賀大学へ企画参加者	来てみんしゃい佐賀大学へ参加者	アンケート（241名）	令和4年7月～令和4年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生との交流が刺激になる ・大学のトピック、話題に関する講演に興味がある ・市民の交流の場を増やして欲しい ・大学の設備で専門的な知識が学べて嬉しい ・イベントを増やして欲しい ・生活に役立つ企画に期待する 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の「来てみんしゃい佐賀大学へ」企画選定の際に考慮します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての企画で大学生が協力し、市民の皆さまとの交流の場となっています。 ・大学の専門性を活かした企画を実施、多くの市民の方にご参加いただいています。 ・一つの企画で3つのイベントと2つのシンポジウムが開催されました。 ・地元佐賀空港の有効利用を考えるイベントや普段使用している石蔵がどのように作られるかなど、生活に密着した企画が開催されています。
4①	総務課渉外室	第11回ホームカミングデー	ホームカミングデー参加者（佐賀大学卒業生、名誉教授）	アンケート（90名）	令和4年11月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・佐大出身者で、政治・経済・文化面で、特に活躍した方々をリストアップして紹介してほしい。 ・開催時期を見直して、学園祭と同時が良いと思います。 ・支援を受けている学生や佐大卒の教職員はできるだけ出席させるようにしたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会と連携し、活躍している同窓生の情報を収集し、リストを作成します。 ・大学祭中央実行委員会とコラボ開催の可能性について協議します。 ・支援した学生や同窓生である教職員への案内方法について、工夫して実施したいと考えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き同窓会と連携し、活躍している同窓生の情報を収集し、リストを作成します。 ・R5.10.28大学祭と同時開催でしたが、参加者は64名にとどまり目標には達しませんでした。参加者から現役学生も参加できるものを企画したらとのご意見がありましたので、大学祭中央実行委員会と連携して、現役学生も参加できる内容のものを企画します。 ・支援した学生や同窓生である教職員への案内方法について、工夫して実施したいと考えています。
4②	総務課渉外室	第11回ホームカミングデー	ホームカミングデー参加者（佐賀大学卒業生、名誉教授）	アンケート（90名）	令和4年11月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会の学生支援として、佐賀大学発ベンチャー企業への支援等は考えられないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各署と連携し、学生の佐賀大学発ベンチャー企業への校友会による支援の在り方等について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係各署と協議し、校友会による学生の佐賀大学発ベンチャー企業への支援制度を設計します。
4③	総務課渉外室	第11回ホームカミングデー	ホームカミングデー参加者（佐賀大学卒業生、名誉教授）	アンケート（90名）	令和4年11月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な環境と雰囲気のもとで、学生や若手教員の能力が十分に伸びるように長期的計画に従って施策を進めてほしい。特に、学生や若手教員の海外派遣を積極的に進め、海外の見識が深まるよう尽力していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会で実施している学生支援事業の海外派遣奨励金及び国際交流奨励金を令和5年度は20万円増額した。 ・また、校友間交流支援事業の海外版ホームカミングデー支援経費を20万円増額し、タイのバンコクで開催した。 ・以上のように校友会の海外派遣等の経費を充実して実施した。 ・なお、若手教員については、サバティカル研修において「若手教員の特認適用」を新設し、海外研修の支援の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会で実施している学生活動支援事業の海外派遣奨励金及び国際交流奨励金を令和5年度は20万円増額した。 ・また、校友間交流支援事業の海外版ホームカミングデー支援経費を20万円増額し、タイのバンコクで開催した。 ・以上のように校友会の海外派遣等の経費を充実して実施した。 ・なお、若手教員については、サバティカル研修において「若手教員の特認適用」を新設し、海外研修の支援の充実を図った。
5	教育企画課	奨学金受給者との懇談会	奨学金受給学生	懇談会	令和5年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・基本教養科目の選択肢が少なく、更に抽選されるので、希望通りに受講できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部によっては、必修科目である学部専門科目と時間が重なることで、履修できる科目に制限があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は新たに「データサイエンス Basic」等、オンデマンドで受講できる科目を複数科目追加し、受講できる科目を増やした。

整理番号	課名等	事業等	意見聴取対象者	意見聴取の方法	実施年月日	大学運営に有効活用できると思われるニーズ(要望)等	各課等における取組状況及び取組計画	取組計画等への対応状況
6	教育企画課	卒業(修了)予定者を対象とした共通アンケート	卒業(修了)予定者	アンケート	各年度12月～2月末	学内のWi-Fiがつながりにくいことがあり、少し不便な時がありました。Wi-Fiの接続、更新がうまくできないことがありました。	キャンパス情報ネットワークの充実のため、令和5年10月までに、Wi-Fiアクセスポイントの性能向上を含めたキャンパス情報ネットワークシステムの更新を行う。	Wi-Fi(000saga-u)接続開始時において、旧ネットワークでは多重に認証を要求していたため、一部の認証機構が過負荷となり繋がりがずらぬ時間が発生していた。新ネットワークでは、1回の認証で済むように構成を変更し、あわせて認証サーバへ集中していた負荷の低減を図った。これにより、従来より接続操作が単純になりスムーズな接続を実現した。
7	社会連携課	TSUNAGIプロジェクト	佐賀県庁	佐賀県・佐賀大学連携調整会議等	令和4年度	令和元年より毎年実施している佐賀県・佐賀大学連携調整会議において、本学の取組等の情報共有を行ってきた。 本学の取組の成果が認められ、より強力に佐賀県内の地域課題の解決や県内の産業・学術の振興を図るため、令和4年度より佐賀県による研究支援事業「TSUNAGIプロジェクト」が、実施された。 令和4年度では、19件の事業が採択されている。	「TSUNAGIプロジェクト」が継続的に実施されるために、佐賀県・佐賀大学連携調整会議等で本学の取組について情報共有を続けていく。	令和5年度は令和5年7月19日に第7回、令和6年2月13日に第8回の佐賀県・佐賀大学連携調整会議を実施した。 これまでの会議を通じて県に本学の取組が認められ、令和5年度TSUNAGIプロジェクトでは、継続事業が13件、新規事業が10件の計23件が採択され、県からの支援額は令和4年度に比べ、令和5年度は約2倍に増額した。 また、TSUNAGIプロジェクトの事業の中で令和4年度からの継続事業である農学系 宮本准教授の研究が新聞やテレビなど多くのメディアで取り上げられた。この取り組みは今後2年ほどかけてデータ収集を行い、地域住民の避難を後押しするなど現行の土砂災害警戒情報を保管する技術となることが期待されている。
8①	情報図書館課	附属図書館本館利用者アンケート	附属図書館利用者	アンケート(490名)	令和4年7月5日～ 令和4年7月11日	・気兼ねなく声を出してグループワークなどができる学習スペースを作ってほしい。 ・図書等の資料を充実させてほしい。	・令和4年10月3日、本館4階旧事務室を改修して、新たにグループ学習やディスカッションができる「多目的学習スペース」の整備を行った。 ・シラバス掲載の参考図書を購入するとともに、学科、教員からの推薦図書を購入及び学生WEB選書ツアーを実施し、学生が必要とする図書の充実を図っている。	・多目的学習スペースの開設以来1年間(令和4年10月～5年9月)で、延べ2,337人の入室があり、グループ学習やディスカッションとして利用されている。 ・シラバス図書については、令和5年度当初に約1,400冊の整備、充実を図った。 また、教員推薦図書は112冊、学生WEB選書ツアーでは72冊整備した。
8②	情報図書館課(医学分館)	附属図書館医学分館利用者アンケート	佐賀大学生・教職員(医学部)	アンケート(109名)	令和4年7月29日(金)～ 8月8日(月)	・図書館内に配置しているデジタルサイネージの活用について ・図書の配置が高い	・お知らせする情報量を増やしていきたい。(学会・セミナーの案内、就活情報など) ・図書の書架については、順番に整理して1段低くなるように調整を行う。	・サイネージを設置してから今まで、図書館関連情報以外を掲示したことはないが、現在進行形で、教職員の方から、セミナー案内のサイネージ利用の相談を受けている。図書館の情報に関しては、以前より頻りに新しい情報を掲示している。 ・図書の書架について、利用者のいない休館日等を利用し、配架している図書の高さが1段低くなるように調整を行った。
9	芸術地域デザイン学部	学部後援会評議員会	学部後援会評議員(学生の保護者)	対面会議(外部8名)	令和4年9月2日(金)	新型コロナウイルス感染症が流行している中、学生の課外活動等が制限されたり、就職活動もオンラインで行われたりと後援会費による学生支援・就職支援活動等ができていないため、もっと学生のために有効活用できないか。	学部長から、普段の授業では招待できない著名な作家等による講演会開催を提案し、了承されたため、世界的に活躍されている美術家(川俣 正氏)による講演会を令和5年1月20日(金)に実施した。また、アートに関する事業活動家(深井桂子氏)による講演会を令和5年2月18日(土)に実施した。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による活動制限もなかったため、就職活動に係る旅費の支援や芸術賞補助事業を実施し、学生を支援している。	令和4年度は、学部長から、普段の授業では招待できない著名な作家等による講演会開催を提案し、了承されたため、世界的に活躍されている美術家(川俣 正氏)による講演会を令和5年1月20日(金)に実施した。また、アートに関する事業活動家(深井桂子氏)による講演会を令和5年2月18日(土)に実施した。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による活動制限もなかったため、就職活動に係る旅費の支援や芸術賞補助事業を実施し、学生を支援している。
10	芸術地域デザイン学部	有田キャンパス地域連絡会	自治体(佐賀県、有田町)、有田商工会議所、有田窯業関係組合(7)	対面会議(外部11名)	令和4年3月31日(木)	有田キャンパスの多数の活動は、内容も魅力的なことをされていると実感したが、有田在住の窯業関係者があまり知らないことは問題である。そこがちゃんとできると、これだけの企画が関係者に浸透していくとすごく良いのではないかと。	学部及び肥前セラミック研究センターの教職員が、有田町並びに窯業関係組合や窯元等の関係者に働きかけ、情報連絡網(メーリングリスト)を作り、有田キャンパス事務室からイベントの案内等を一斉に広報している。また大学のプレスリリース配信を活用している。	学部及び肥前セラミック研究センターの教職員が、有田町並びに窯業関係組合や窯元等の関係者を含めた情報連絡網(メーリングリスト)を作り、有田キャンパス事務室からイベントの案内等を一斉に広報している。令和5年度は5回メールを送付し、11件の情報発信を行った。また大学のプレスリリース配信を活用し、有田キャンパスの活動のみならず、芸術地域デザイン学部の活動をステークホルダーに発信している。
11	医学部総務課	医学部附属病院職員満足度調査	附属病院に勤務する職員	アンケート	令和4年12月7日～ 令和4年12月28日	昨年度と同様に、賃金が安い、休暇が取りづらい、仕事が多すぎるとの意見を多くいただいている。また、「働き甲斐のある職場で大切なこと」には、人間関係のほか、業務に見合った賃金や仕事のやりがいなどが多く意見をいただいている。働き甲斐のある職場へ転換するためにも、相応の賃金や適切な人員配置が必要である。	・職員の皆さんの仕事に関する率直な思いや意見・要望をできる限り正確に把握するためにアンケート情報は、新たに設置した「業務改善WG」において共有し、少しでも働きやすい職場環境作りのために改善活動を行い、魅力と働き甲斐のある職場づくりを目指す。	職員満足度調査の調査結果については令和5年2月の病院企画室会議及び病院運営協議会において報告を行い、病院執行部や診療科長等の構成員と共有を図った。 また、令和5年1月31日開催の業務改善WGにおいても調査結果を共有し、寄せられた意見を踏まえて各部門の問題点を洗い出すこととされた。 その後、令和5年3月29日開催の業務改善WGでは、各部門が洗い出した問題点が提出され、WGにおいて共有された。今後の取り組みとして、短期的に改善を図るものと中期で改善できる問題とに分けて改善策を検討し、その評価を行うこととしている。 令和6年2月より、看護助手に月額6,000円を増額する待遇改善を実施した。

整理番号	課名等	事業等	意見聴取対象者	意見聴取の方法	実施年月日	大学運営に有効活用できると思われるニーズ(要望)等	各課等における取組状況及び取組計画	取組計画等への対応状況
12	医学部学生課	1000円昼食のアンケート	医学部学生	アンケート (69名)	令和5年1月11日～ 令和5年2月15日	朝食や夕食を提供してほしい。	提供に向けて佐賀大学生協と相談する。	佐賀大学生協に相談した結果、朝食や夕食を営業するためには採算を見込める利用者数が必要であるが、現状昼間の短時間営業でも採算がとれていない状況であることから、これ以上の営業時間の拡大は難しいとのことであった。しかし、病院内の24時間営業のコンビニや、令和5年7月25日にリニューアルオープンした病院食堂が利用可能であることから、学生の利便性は確保できている。
13	医学部医事課	患者満足度調査	患者様	アンケート	令和5年1月30日 ～令和5年2月3日	患者様の視点から見た病院運営の在り方について活用できると思われます。	・アンケート結果については、病院内会議に報告するとともに、改善に向けた対応策を検討していきます。 ・また、アンケート結果は職員に周知するとともに、病院HPにて公開します。	令和4年度(令和5年1月30日～令和5年2月3日実施)の結果 外来患者: 回答者数: 595人、入院患者: 回答者数: 230人 ※概要版はこちらから https://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/guide/kanjyamanzoku/
14	医学部医事課	ご意見箱	患者様及びその関係者様など	ご意見箱	常設	患者様及びその関係者様など外部等の視点から見た病院運営の在り方及び病院サービス向上について活用できると思われます。	・ご意見については、必要に応じて病院内会議に報告するとともに、改善に向けた対応策を検討していきます。	・ご意見については、必要に応じて病院内会議に報告するとともに、改善に向けた対応策を検討していきます。